

2020年度

さくらんぼ園だより



9月号

社会福祉法人 舞鶴市社会福祉協議会

舞鶴こども発達支援施設「さくらんぼ園」(TEL64-5798・FAX62-9171)

楽しい療育をしていきたいです。

1年前はどうだったのかよく覚えていませんが、8月に入ってからの暑さは、相当なものでした。さくらんぼ園で育てているアサガオとひまわりにも、この暑さは相当厳しかったようで、咲くには咲きましたが、目を楽しませてくれる程の華やかさはありませんでした。(7月の長雨の影響が大きかったのかも知れません。)8月も後半になり、風が涼しく感じられるときもあります。道ばたのススキの背も高くなってきました。秋はそこまで来ています。

さて、私の住む地域には、米作りを担う営農組合があり、私は役員の一人になっています。週に1回以上は、「共同」で何かしらの作業をしています。例えば、組合で管理している田の草取りをします。日差しがきついときは、すぐに汗が噴き出します。しかも、腰をかがめての作業はしんどいですが、それでも何とか気力は続きます。人と一緒にやるから気力が続きます。この人もがんばっているから、自分もがんばろうと無意識の内に思ってしまうのでしょう。また、田の水漏れを防ぐために、「あぜ波シート」というものを田の周りに張ることもあります。シートを差し込みやすいように、誰かがスコップで溝を掘っていきます。別の者がシートを引っ張りながらその溝に差していきます。同時に、それを別の者が叩いて固定します。一人でもできる作業です。しかし、このように、二人以上いたら効率的になり、作業がはかどります。個人的にも、こうして一緒に働くと、作業のやり方や適した時期に必要な作業が学べます。当然のことですが、暑かろうとそうではなかろうと、作業の途中には休憩を入れます。農業のことや身近なことなど、いろいろなことを話すこの時間は、ことのほか楽しい時間になります。休み過ぎて、腰を上げるのがおっくうになるときもありますが、また、元気ががんばれます。気力(やる気)が出たり、作業がはかどったり、新しいことを知ったり、楽しかったり、それが「共同」です。

子どもたちの保育園等の生活にも、また、就学する学校の生活にも、「共同」はたくさんあります。保育園等では、例えば、虫見つけやお店屋さんごっこなど、自然や物を介して友達とかかわり、心を豊かにしたり、社会性を育てたりする体験活動が意図的に展開されます。また、学校は、学習が中心になりますが、学び合いの中には必ず「共同」があります。

子どもたちがさくらんぼ園で過ごす時間の半分以上は、グループの時間—「共同」です。そこでは、言葉や表情や行動で相手に自分の思いを伝えたり、相手の思いを知り、それを受け止めたりするコミュニケーション力を育てることを大事にしています。そして、その力で友達や先生とつながり、子どもたちは、遊びや活動を楽しんでいます。このような「共同」ができる基本は、コミュニケーション力はもちろんですが、人と一緒に何かすることは楽しい、そういう感覚が育っていることだと思います。さくらんぼ園が、「楽しさ」を第一にしている理由がここにあります。子どもたちには、さくらんぼ園で、本当に楽しい時間を過ごしてほしいです。

9月もよろしくお願ひします。

園長小谷 和弥

職員一同



9月 療育表



月	火	水	木	金
	1 午前療育 午後療育	2 午前療育 午後療育	3 午前療育 午後療育	4 午前療育 午後療育
7 午前療育 午後療育	8 午前療育 午後療育	9 午前療育 午後療育	10 午前療育 午後療育	11 午前療育 午後療育
14 午前療育 午後療育	15 午前療育 午後療育	16 午前療育 午後療育	17 午前療育 午後療育	18 午前療育 午後療育
21 	22 	23 午前療育 午後療育	24 午前療育 午後療育	25 午前療育 午後療育
28 灘先生来園 午前療育 午後療育	29 午前療育 午後療育	30 午前療育 午後療育	10/1 職員研修	2 午前療育 午後療育

9月の予定
*28日(月) 灘先生来園日。

10月の予定
*27日(火) 灘先生来園日。

*11月には年中児の保護者の方を対象とした就学説明会を予定しています。詳細は決まり次第お知らせします。(「新型コロナ」の関係で、延期する場合があります。)



人気の遊びの紹介

さくらんぼ園で子どもたちに特に人気のある遊びがあります。

それは、「クルクルヘリコプター」と「バスにのって」です。どちらも曲に合わせて人と触れ合う遊びです。「クルクルヘリコプター」は、手をつないでジャンプしたり、回ったり、最後に体を大きく回してもらいます。「バスにのって」は、大人の膝にのり、左右・上下に揺れたり、高く持ち上げてもらったりします。どちらも子どもたちの好きな動き・感覚で、遊びの終わりがわかりやすく、何より人と触れ合い楽しさを共有できる場所がいいと思っています。曲が終わると「もう一回。」などと、必ずと言っていいほどリクエストがあります。指導員もそれに応じて何度も繰り返します。

体が大きくなると、お子さんを抱えたり持ち上げたりは大変になりますが、無理のない範囲でご家庭でも協力していただき、「バスにのって」など、お子さんと触れ合う遊びをしていただければうれしいです。お子さんの喜ぶ顔がたくさん見られますよ。

今後も療育を通して楽しい遊びをたくさん提供していきたいと思ひます。

主任 岩見恵子

